

学芸スタッフ紹介

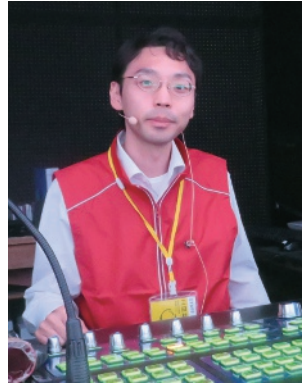
はじめまして。7月より天文担当学芸スタッフとなりました、三田村耕平(みたむらこうへい)と申します。

私が天文を明確に意識したのは、高校生の頃に山頂で星を見たことでした。空気が薄く街明かりが届かない環境は、文字通り満天の星を見せてくれました。私も元々自然や理科が好きでしたが、幼少期は星をあまり意識していませんでした。それは、生家の前が晴れていれば天の川がギリギリ見えるかどうかの暗さで、星が身近過ぎたのかもしれませんが。実は小学生の頃に一時、理科の授業で惑星の動きに関心を持ったものの、それがすぐには天文と繋がらず、後年になってその経験が天文趣味の高じる一因だったのかもと思い始めています。

大学院では、データを3次元的に再構築して解析する研究をしていました。そこから転じて、現在では科学教育としてより分かりやすい可視化・体験の手法に興味があります。プラネタリウムは、最も手軽に体験できる没入型情報メディアです。図や平面映像では理解が難しい科学の概念や現象も、プラネタリウムを駆使すれば、はるかに理解がしやすくなるはず……と思い、日々新たな表現技法を模索しています。

ところで、天体や現象に名前を付け、覚え、共有するということは、知られている限り人間のみができる営みです。生物は、動物のある段階でものを見ることができるようになり、霊長類になることで指をさすことができるようになりました。そして人類は、言葉を操ることで、宇宙の遥か彼方にあるものでさえ、自分の中に記録しその一部にすることができます。星の名前を一つ憶えるごとに、自分の世界が少しずつ広がっていく、そうした感覚をぜひプラネタリウムで感じていただきたいと思っています。

学芸員さんや他のスタッフさんと比べて経験も浅く、未熟で至らない点もあるかと思いますが、私自身が楽しみながら投影をしていますので、皆さまも一緒に楽しんでいただければ幸いです。よろしく願いいたします。



三田村 耕平(科学館学芸スタッフ)